

あかるいまち21 いっせい訪問行動が始まったよ！

No.1350 2020年9月14日組合員活動推進課 082-532-1264

	9月	2020年度
組合員ふやし	6人	588人
出資金ふやし	321万円	8246万円
純増	74万円	4123万円

いっせい訪問行動スタート集会

「いっせい訪問行動」スタートに先立ち、9月12日に、生協けんこうプラザにて、いっせい訪問行動スタート集会が開催され、組合員40名・職員41名の計81名が参加しました。

スタート集会ではまず、いっせい訪問行動推進本部長の田中さき子理事より、職員と組合員の協同の取り組みとして、地域にお住まいのみなさんの声を聞いていくための訪問行動をおおいに推進していこうとのよびかけで始まりしました。

記念講演には、反貧困ネットワーク広島の理事長をしておられる秋田智佳子弁護士をお招きしました。借金があっても自己破産の手続きを進めても税金の滞納は解消されず、収入を差し押さえられたために生保の申請をせざるを得なかった事例・受刑者の間で介護したりされたりして老人ホームのようにになっている刑務所・認知症の夫婦のお金をとりあげてしまう息子からコロナ給付金を守った事例など、秋田弁護士が、弁護士業務や反貧困ネットワークの活動の中で支援された事例が次々に紹介され、コロナ禍で一層進行してしまった貧困や社会的孤立の実態に、参加者は引き込まれていきました。

最後に藤原理事長より、コロナ禍における訪問行動について留意すべきことをふまえた上で「つながり」をひろげていこうと、集会のまとめをしていただきました。いよいよ9月14日からいっせい訪問行動スタートです。訪問行動や電話かけ、おおいにがんばりましょう。

参加者の感想文から

組合員「想像以上にひどい貧困の実態を聞いて、私たちの役割も重要さを増してきたと感じました。身近な困窮者を掘り起こす力添えができれば良いと思います。→いっせい訪問行動等に力をつくします。

組合員「貧困と言ってもいろいろな背景があり、根深さを改めて感じ心が痛んだ。困窮者はなかなか声を出しにくい。訪問活動を通して、地域の中でキャッチする目を持ち、つなげていく支援ができればと思う。

職員「励みになるご講義でした。先生のお話ひとつひとつに共感できる内容でした。じぶんたちの仕事に自信をもつてのぞめそうです。まだまだもう少しお聴きしたいくらいです。」

未記入「秋田弁護士さんのお話、興味深く聞きました。自己責任論で何か気軽に相談しようと思っても、逆に自分が責められるのではないか、自分に非があるのではないか、とためらう人が多いのではないかと思います。人と人が助け合える、暖かい社会になって欲しいです。困窮者をキャッチする感度を高め、丁寧に聴き、つなぐ力の必要性を感じました。」

